

Topic5 市議会と高校生が初めての意見交換会を実施



7月5日、鹿児島水産高校で同校の高校生と市議会議員との意見交換会が実施されました。この会は、市議会が市民に開かれた議会として各種団体等との意見交換を行うもので、高校生を対象に開催するのは初めての試みです。

参加した同校生徒、専攻科学生12名からは、事前に「空き地や使われていない土地の活用」「市内、市外の方がたくさん集まる場所が欲しい」「子育て世代に対するサポートについて」の3つのテーマで質問が寄せられ、これに議員が回答する形で会は進行了しました。

さらに参加者からは、コンビニや企業、他市と差別化された商業施設の誘致のほか、野外で多様なスポーツができる運動公園の設置などの提案があり、若い目線の率直な意見を聞く貴重な機会となりました。

Topic6 枕崎近海でかつお釣り体験アドベンチャーを開催



7月22日、枕崎近海で第33回かつお釣り体験アドベンチャーが開催され、市内の中学生10名が鹿児島水産高校の実習船「拓青」に乗船し、釣り体験を行いました。

残念ながらかつおは釣れませんでした。さばやあじなど合計59匹の釣果がありました。

8月には、かつおを捌き、捌いたかつおを刺身やわら焼きタタキ、腹皮の唐揚げなどに調理して味わう体験活動を行い、さらにかつおについて理解を深める予定です。

Topic3 県内初！高校生5名が明るい選挙推進協議会の委員に



6月24日、本市選挙管理委員会では、若者の投票率向上と政治への関心を高めてもらうため、市内高校の生徒5名(鹿児島水産高校3名、枕崎高校2名)を新たに市の明るい選挙推進協議会の委員とする任命式および調印式を行いました。

式では、高校生を代表し、鹿児島水産高校3年の山下さくらさんが「未来を担う若者に、政治への関心を高めてもらうための啓発活動を展開し、力の限り取り組むことを誓います」と宣誓しました。

県内初の試みとなる高校生委員は、啓発活動への参加協力を主な活動とし、今後さらに活動を拡げていく予定です。

Topic4 本市消防本部で新生児蘇生法病院前コースを開催



6月25日、本市消防本部では、予期せぬ出産に対応し、命のバトンを安全に医療者へ引き継げるよう、鹿児島市立病院新生児内科医長の平川医師を講師に招き、新生児蘇生法病院前コースを開催しました。

病院前コースは、令和2年に開始されたプログラムで、病院外での開催は県内初めての取り組みになります。本市の救急隊員や消防吏員16名が参加し、実践に即した胸骨圧迫や人工呼吸の指導、シナリオ実習を行い、医療施設外での出生を想定した講習を行いました。

Topic2 犯罪や非行のない明るい社会を目指して



7月は「社会を明るくする運動」強調月間でした。この運動は、犯罪や非行の防止と立ち直りについて理解を深め、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

これに伴い、枕崎市保護司会が7月1日に市役所を訪れ、内閣総理大臣のメッセージと県知事のメッセージを市長に伝達しました。また、市内中学校や商業施設等でも広報活動を行いました。

Topic1 南薩地域の食生活改善推進員へ出汁の素晴らしさをPR



5月29日、南薩地域地場産業振興センターにおいて鹿児島県食生活改善推進員連絡協議会の加世田支部総会が行われ、枕崎市、南さつま市、南九州市の食生活改善推進員が参加しました。午後からは、「だしのある食生活」と題して、的場水産株式会社の的場真美さんが講演を行い、かつお節等の「うまみ成分」の紹介や、「だしのある食生活」をキーワードに出汁に関するトレンドを紹介し、その素晴らしさをPRしました。

夏の水辺を楽しむために！

夏は、海水浴や川遊びなどのレジャーを楽しむ季節です！

しかし、例年、この時期には多くの水難事故が発生しています。昨年夏(7月、8月)、県内では17件の水難事故が発生し、9の方が亡くなっています。このうち、海での事故は15件、河川での事故は1件で、主な事故原因としては「魚とり・釣り」中が4件、「シュノーケリング」中が3件、「水泳」中が3件でした。また、子ども(高校生以下)の事故が5件5人、高齢者(65歳以上)の事故は7件7人となっています。

このような水難事故を防止し、楽しい夏を過ごすために次の点に注意してください。

ライフジャケットの着用

釣りやボート等で水辺に行く際は、万が一に備え、必ずライフジャケットを着用し、また、複数人で行くように心掛けてください。

常に天候や波の状況を確認する

悪天候時には、水の流が速くなったり、急激な増水、高波の発生、水深が深くなるなど、水難事故に遭う危険性が高くなります。増水した河川や用水路等に近づいたり、水辺でのレジャーは避けてください。

保護者の方は、子どもから絶対に目を離さない

子どもだけの水泳や水遊びは、急に深みにはまって溺れるなどして危険です。幼児や泳げない子ども等には必ずライフジャケットを着けさせて、保護する責任のある者が付き添うなど、目を離さないようにしてください。

飲酒状態で魚釣り等はしない

お酒を飲んだ状態での魚釣りや水遊びは、水(海)中に転落したり、溺れたりする可能性がありますので、絶対にやめましょう。

■問合せ 枕崎警察署地域課 TEL72-0110